

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名 <b>クレイジー・アンティクス</b>	投球者 <b>徳江 和則</b>	センター <b>平和島スターボウル</b>
RG <b>2.500</b>	△RG <b>0.054</b>	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

**テストボール：クレイジー・アンティクス**

フレアーの幅  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

PAPからピンとの距離 **5** インチ

番

**比較対照ボール：アンティクス**

フレアーの幅  インチ

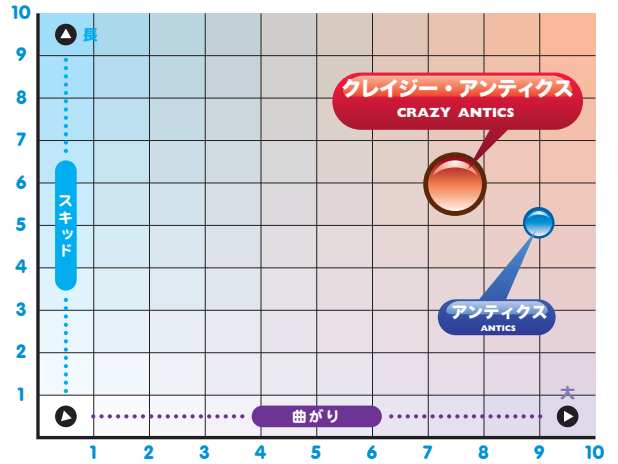
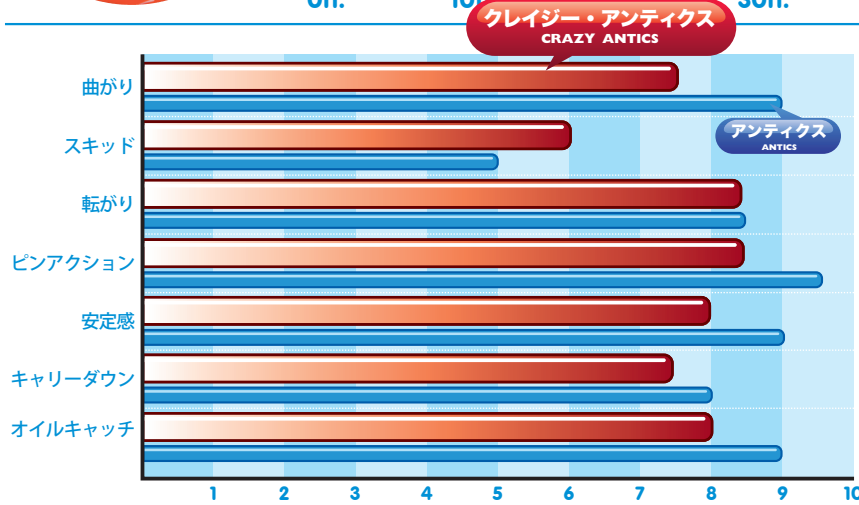
表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

PAPからピンとの距離 **5** インチ

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レールコンディション	バックエンドリアクション	レンジス
Light Oil	Smooth	Early Roll
Light to Medium	Smooth to Arc	Early to Med
Medium Oil	Arc	Med-Lane
Medium to Heavy	Arc to Sharp	Med to Late
Heavy Oil	Sharp Angle	Late Roll

### ボールの評価

CRAZY ANTICSは11月中旬からABS専属を筆頭に、人気女子プロボウラーその他主要メンバーに先行配布されました。それはコロンビア史上過去にない鋭いバックエンドリアクションの性能をあらゆるボウラー、あらゆるコンディションにおいてのデータを得ることと同時に、奇抜な配色とCRAZYなリアクションをいち早く武器として戦ってほしい表れでもあります。

今回のこのCRAZY ANTICSは、ANTICSで使用されたHIGHパフォーマンスカバーストックAR300をHybrid化させ、バックエンドの俊敏なグリップ感を印象付けられるよう、初めて着手するソリッドカバーとパールカバーの特別配合になります。その配合によってもたらされたパフォーマンスは、ネーミングに託されている「CRAZY」という表記どおり、コロンビア社最大の入射角を得られる性能に仕上がっており、攻撃的にラインを攻めることができるでしょう。

私は初めてこのボールを投球したとき、初代ANTICSの面影を感じさせない、今まで感じる事の出来なかった鋭いバックエンドモーションをイメージすることができました。当初から「ANTICSの走り系は良いボールになるだろうな」と予想していた通り、新配合のHybridカバーとHi-Dynamixコアとの組み合わせは想像以上に良い仕上がりであり、特にバックエンドの鋭さはコロンビア”1”の鋭さと言っても良いと思います。走り系に属されていても走りの中にオイルに対しての弱さは感じられませんし、グリップが安定感していますので、大きく出し戻すラインでも躊躇なく攻める事もできます。

Purple, White, Orange Peelのちょっと奇抜な配色ですが、気にならないほど良く転がると思います。新生コロンビアから新たな配色とケミカルチューンを積極的に取り入れてきたコロンビア社。”攻め”であるCRAZY ANTICSは皆さんの心を癒るボールでしょう。

### 特記事項

**日本の意向を組み入れ、バックエンドの動きを強調させた攻撃的スペック。切れると言われる他社メーカーとの性能比較でも互角に渡り合える性能を是非お試しください。**